

「ぼくの大すきな場所」

田尻小 四年

星野 ほしの 弦光 げんき

ぼくはこの夏、ピッピコンサートで、歌を歌った。

ピッピコンサートとは、心身にハンデのある方や、そのご家族などから寄せられたメッセージを、多くの方に伝えたいという気持ちから始まった、手作りのコンサートです。もともと、お母さんがピッピスタッフとしてホランティア活動をしていて、方々を見ていて、

ぼくもやってみたいなと思い、さん加する事にしました。

初めて歌った時は、方が楽しかったという気持ちだけでした。でも、一年生の時にさん加した大きな音楽ホールでのピッピコンサートでは、ぼくが歌うと、みんなが笑顔で手作りの楽器を鳴らしてくれたり、いっしょに歌ってくれ、人もいてうれしい気持ちでいっぱいになりました。作詞者の、みんなが笑顔になつてほしいという思いを伝える事ができた

のだからあと思いました。

練習に行くと、もうどう犬をつれた目の不自由な人や、車イスにのつた体の不自由な人など、夕ブレットを使って気持ちを伝える人など、さまざまなかピッピスタッフの人たちがいます。ぼくに手をふってくれたり、楽しい会話をしてくれる事もあり元気をもらっています。ぼくも、こまづいていたら力になりたいです。

九月一日日本番の日。今回は、詩にこめられた思いをよく考えて練習をつみかさねてきました。前とちがってとてもきんちようしたけど、ステージの中央に立ったぼくは、お母さんのピアノに合わせて、最後まで大切に歌いきる事ができました。作詞者の人にも会えてうれしか、だし、聞いてくれた人たちにも喜んでもらえ、想いが伝わったのだからあと思いました。ピッピの活動は、しょうがいのある人もない人も関係なくきょうかし合って活動できる場所なので、とても大切だと思っています。これから、ぼくの大すきな場所です。